

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 11章 5～13節＞

1 (5-8) 何が言いたい？ 前の個所との関係から 「友達」に注目。

ここだけ読むと変わった話ですが、直前が祈りについての話ですから、熱心に祈ることを教えているのだと分かります。気になるのは「友達」間でのやり取りであり、それが持つ意味です。夜中に無理を言えるのは友達である、すなわち厚い信頼関係があるからです。ここでイエス様が言いたいことは、その信頼関係をも上回る「しつように頼む」ことの大事さなのです。原文を直訳すると、「彼のしつこさ（無恥、厚かましき）の故に」です。友人（神様）を本当に信頼しているから、どこまでもしつこく、厚かましく、無恥をさらしてまで願う（祈る）のです。本当に信頼している神様にそこまでして祈るのだから聞かれないはずないでしょ、とイエス様は教えられているのです（だから次の9節以下へ）。

2 (9-10) 何が言いたい？ 「求める、探す、たたく」の違いに注目。

「求めなさい」とはまさに「祈りなさい」の意です。その次にすることは神様が用意して下さったものを「探す」ことです。自分が欲しいと思ったものと決めつけず、それ以上に良いものかもしれない、神様が用意して下さっているものをです。「たたく」は夜中に友人の家の戸をたたき続ける人の姿を連想します。すなわち、神様に真剣に祈り続けよと再度呼びかけられているのです。大事なことは、これはイエス様自身が「私は父なる神様をこのように信じているのだ、あなたたちもそうしなさい」と思って語られているのだということです。ですから、私たちにとって信仰とは、このイエス様を与えて下さった神様に驚き、このイエス様と同じように神様を信じて生きることを始め出すことです。その時からこの世の論理ではなく信仰の論理で考えることを大事にし、そこに見えて来る道を進んで行くことなのです。その時に、神様は必ず私たちに一番良いものを与えて下さるのです（だから次の11節以下へ）。

3 (11-13) 何が言いたい？ 天の父とはどんな方か。 「聖霊」に注目。

一番良いもの、それは聖霊だとここで言われています。なぜでしょうか？ 聖霊は、聖書では、イエス様のことを理解させ、それによって父なる神様がどのようなお方であるかを私たちに理解させてくれるものです。すなわち、私たちに神様の愛の深さを教えてくれるものなのです（ヨハネ福音書 14:26, 16:13-15, 24）。どんな困難な中にあっても主にある平安が与えられる（パウロの表現）、これ以上の恵みはないでしょう！